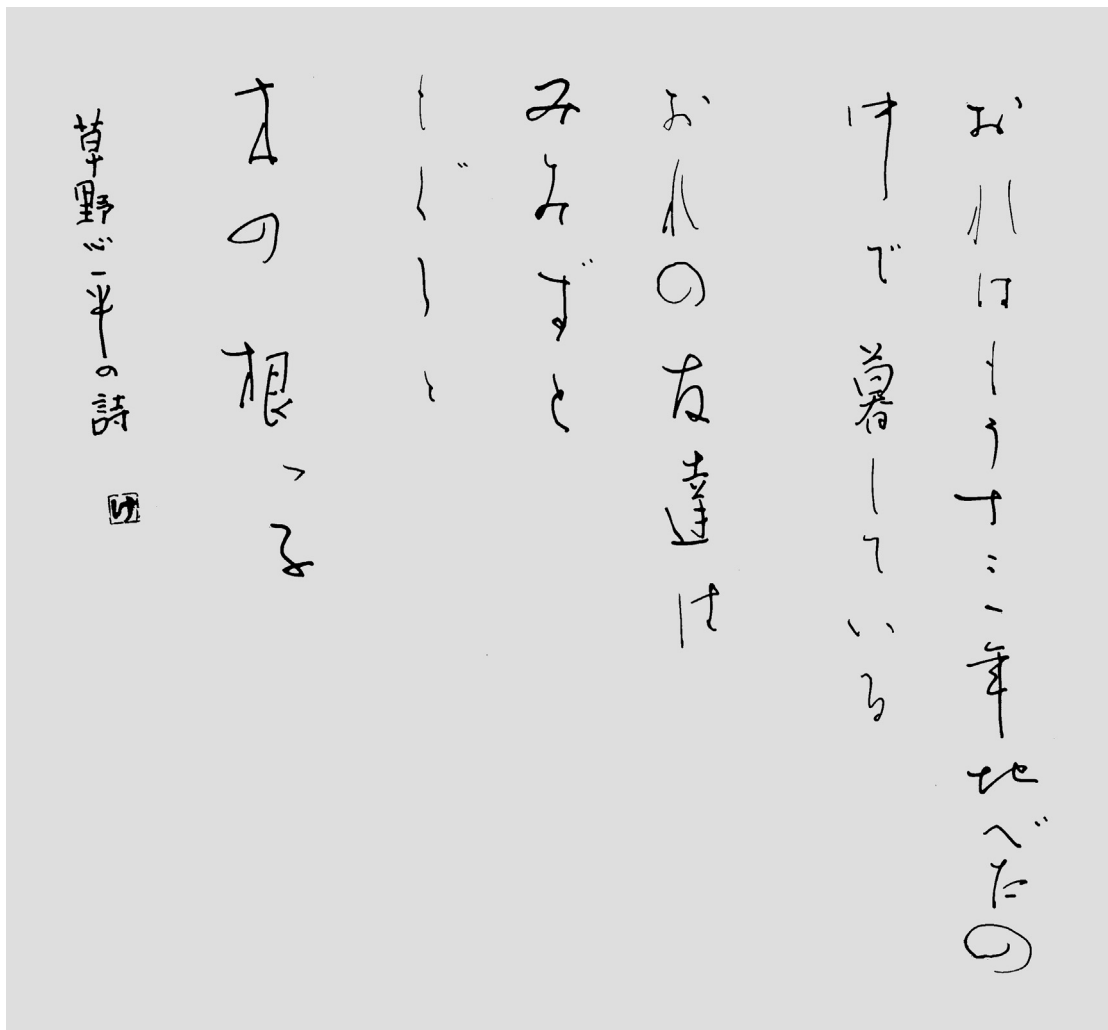


漢字かな交じり文を書く(8)

締切り 八月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月の作品は、草野心平氏の独特の世界観を表現しています。皆さんもそれぞれに工夫してみてください。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※出典 草野心平詩集より 「せみ」

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印のみ可)

□作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕君子は禍至れども懼れず、福至れども喜ばず

君

禍

福

至

懼

福

至

喜

同字を変化

線と線の連なりが大切であり、字形は総じてふところ広く書く。

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

君子は禍至れども懼れず、福至れども喜ばず

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

大

同

的

知

識

行

動

さがらぬよう

そらせて長く

平行に

行	知	人
動	識	生
で	で	の
あ	は	大
る	な	目
	く	的
	て	は

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★人生の：（書体Ⅱ行書）

トーマス・H・ハックスリ（一八五〇～一九〇五）

イギリスの生物学者

進化論の普及者として知られるハックスリのことは。この場合の知識は、

科学的知識を主にさしています。

正しい知識を得ることは大切なこと

ですが、それを基礎にして行動し、生

活の向上に、実際に役立てていくこと

が人生の大きな目的なのです。

◆9月課題予告（楷書）

分別過ぐれば

大事の合戦は

成し難し

★君子は：（書体Ⅱ行草または草書）

孔子の言行や、孔子と門人との問

答を集録した書『孔子家語』より

人生の浮き沈みは人の常。だれも避

けて通ることはできません。君子（人

格者）は、状況の変転によって一喜一

憂をしません。逆境に追いこまれても

逃げたりせず、順境にあっても浮かれ

たり慢心したりしません。あるがまま

を平然と受け入れてゆくのです。

◆9月課題予告（行書）

人間である以上

老年に至るまで

万事を希望せよ

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

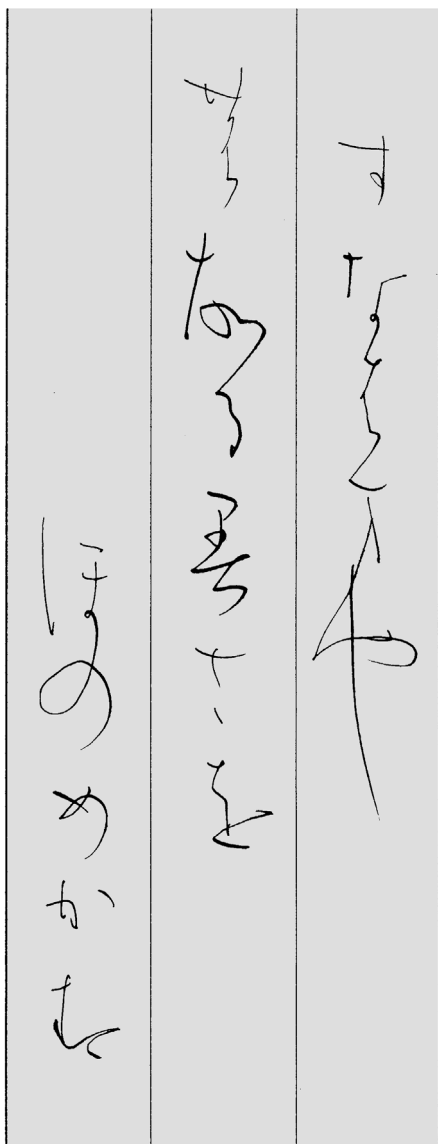
一般部かな課題

締切り 8月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

すなはち 農故
砂浜や残る暑さをほのめかす 春

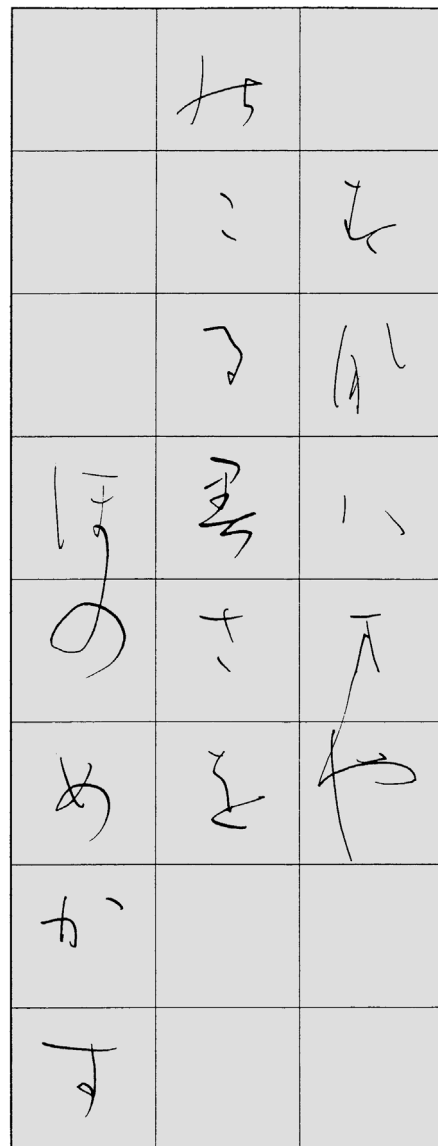


こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

春那 八万 能こ
砂浜や残る暑さをほのめかす



こ だま ち せん 書
児 玉 知 泉

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

訃報

児玉知泉先生ご急逝

本会評議員で硬筆かな手本ご執筆の
児玉知泉先生には、六月十四日（月）、
ご逝去されました。享年六十二歳でし
た。

今年の四月号からお手本をご執筆い
ただくようになった矢先のことと、こ
れからのご活躍を期待しておりました
だけに誠に残念でなりません。

心からご冥福をお祈り申し上げます。
なお、後数ヵ月間は、ご執筆いただ
いているお手本を掲載させていただき
ます。

◆9月課題予告

うの花も白し夜半の天河
よなか あまのがは

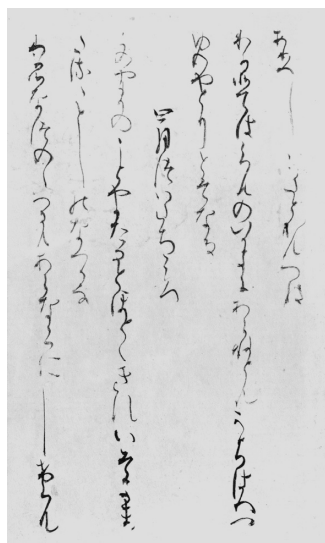
（池西言水）

〔出典〕日本文学全集69 現代句集

砂浜や残る暑さをほのめかす
（正岡子規）

〔古筆参考〕

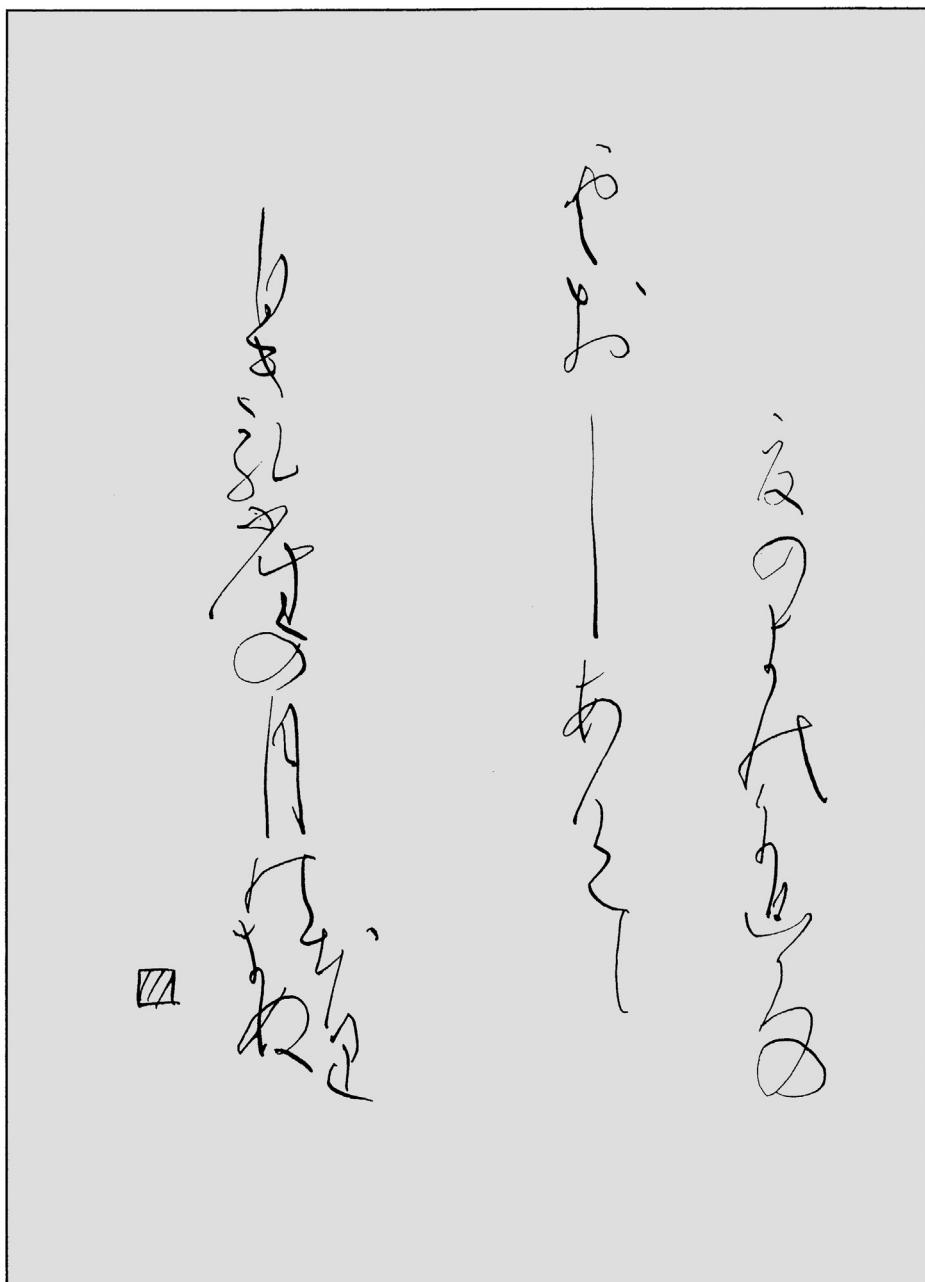
いずみ しき ぶ ぞくしゅうきれ
和泉式部続集切



ありへしかたとおもへば
わがそではくものいかにあらねどもうちはへつ
ゆのやどりとぞなる
四月ついたちころ
かのやまのことやかたるとほとゝぎすいそぎま
たるとしのなつか
わが心なつのへにもあらなくにしげくも

締切り 八月二十五日（必着）

築瀬舟香書

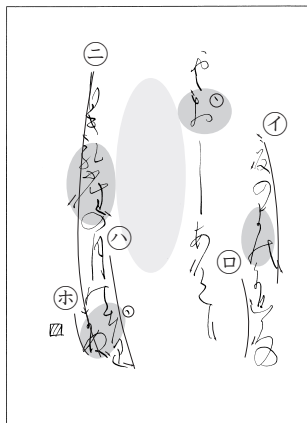


夏の夜の鈍色の雲おし上げて
白き孔雀の月のぼりきぬ

〔歌意〕夏の夜空では、暗い鈍色をした雲をおし上げて、白い孔雀のような清らかな月がのぼってきました。

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、②と③、②と④、それぞれ呼応。
- 一行の密の部分、密の動き注意。
- 大きな間大切、余白大切。
- ①と②の方向に注意。

「和泉式部続集切」の中の「し」

私は和泉式部続集切の中の「し」に魅力を感じています。①手の切れるような線の「し」②筆で云えば筆の腹を使った温かな線の「し」③天空より切り込まれたような細くて鋭い線の「し」。と一本の線が千変万化しています。ここで使われている「し」は打楽器的に「お」から「あ」の一画目迄リズムに乗って書かれています。

◆9月課題予告

なつかしき秋の初めの夕月は
紅の芙蓉のここちこそすれ

（与謝野晶子）

締切り 8月25日(必着)

翔太君、お盆には山へセミ捕りに
行ったり花火をしたり、とても楽し
かったね。また遊びに来て下さい。
いい子のごほうびに、大好きな
機関車トーマスの絵本を贈ります。
お母さんに読んでもらってね。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

翔太君、お盆には山へセミ捕りに
行ったり花火をしたり、とても楽し
かったね。また遊びに来て下さい。
いい子のごほうびに、大好きな
機関車トーマスの絵本を贈ります。
お母さんに読んでもらってね。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん 岡 嶋 桂 川 書

今もローマ市に残るコロセウムは、
当時の建物として最大の遺跡だ。

徳島県阿南市 氏 名

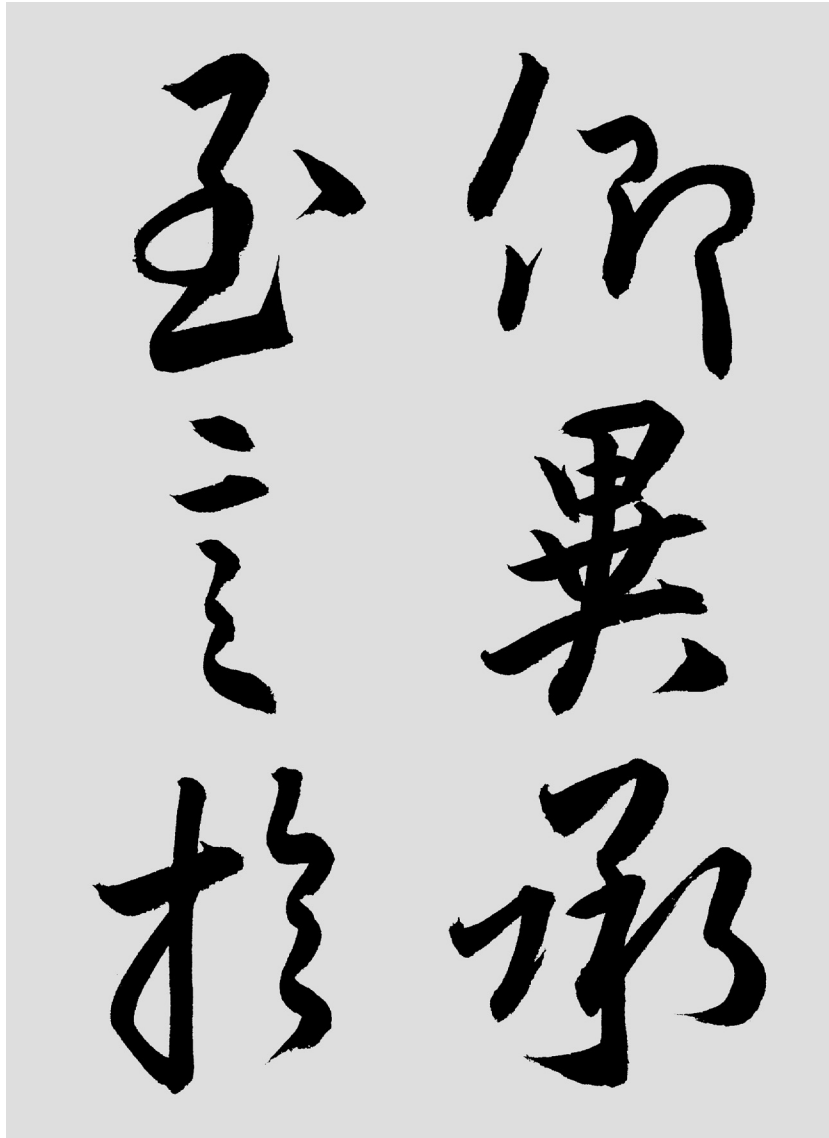
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 8月25日（必着）



仰
異
承
至
言
於

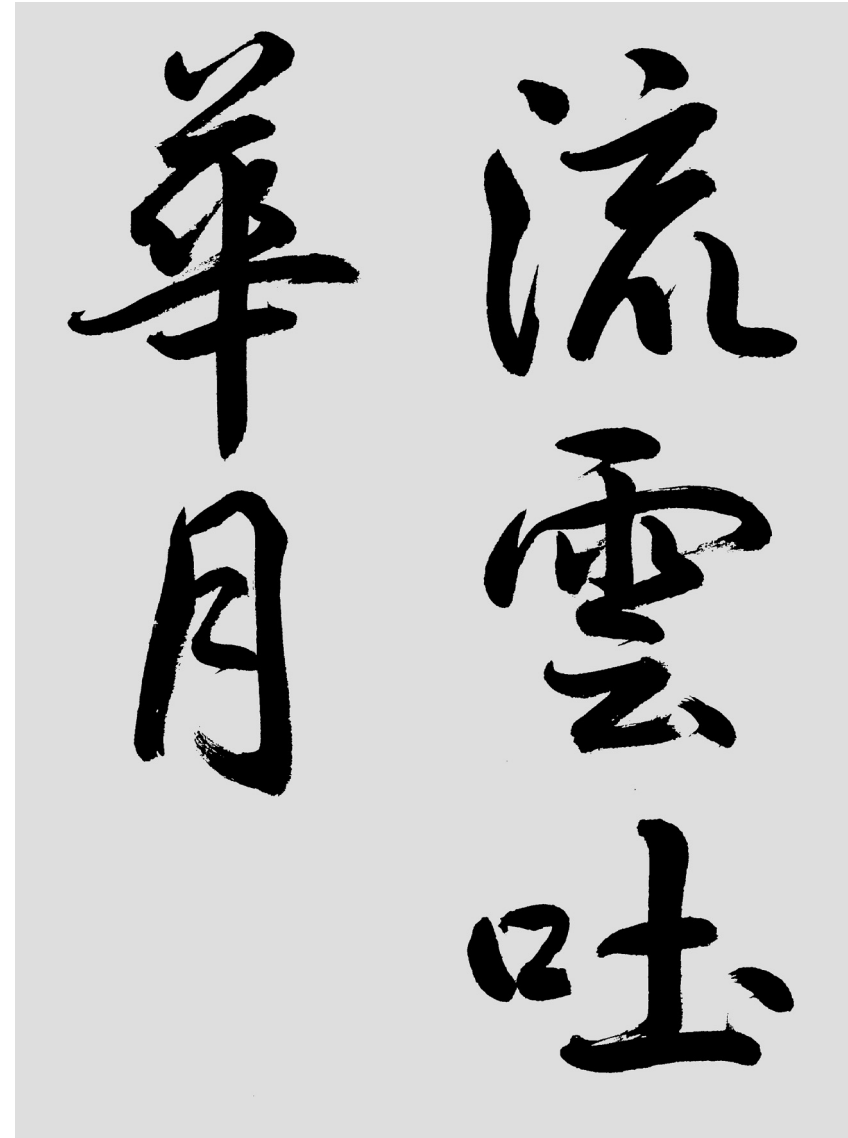


準初段から師範まで

奥村暢之臨

〔出典〕集字聖教序（672）〔筆者〕王羲之法書より集字

〔読み〕異を仰ぐ。至言を（先聖に）承け、



新入から1級まで（行書）

澤静雨書

〔読み〕流雲^{かげつ}華^は月に吐く

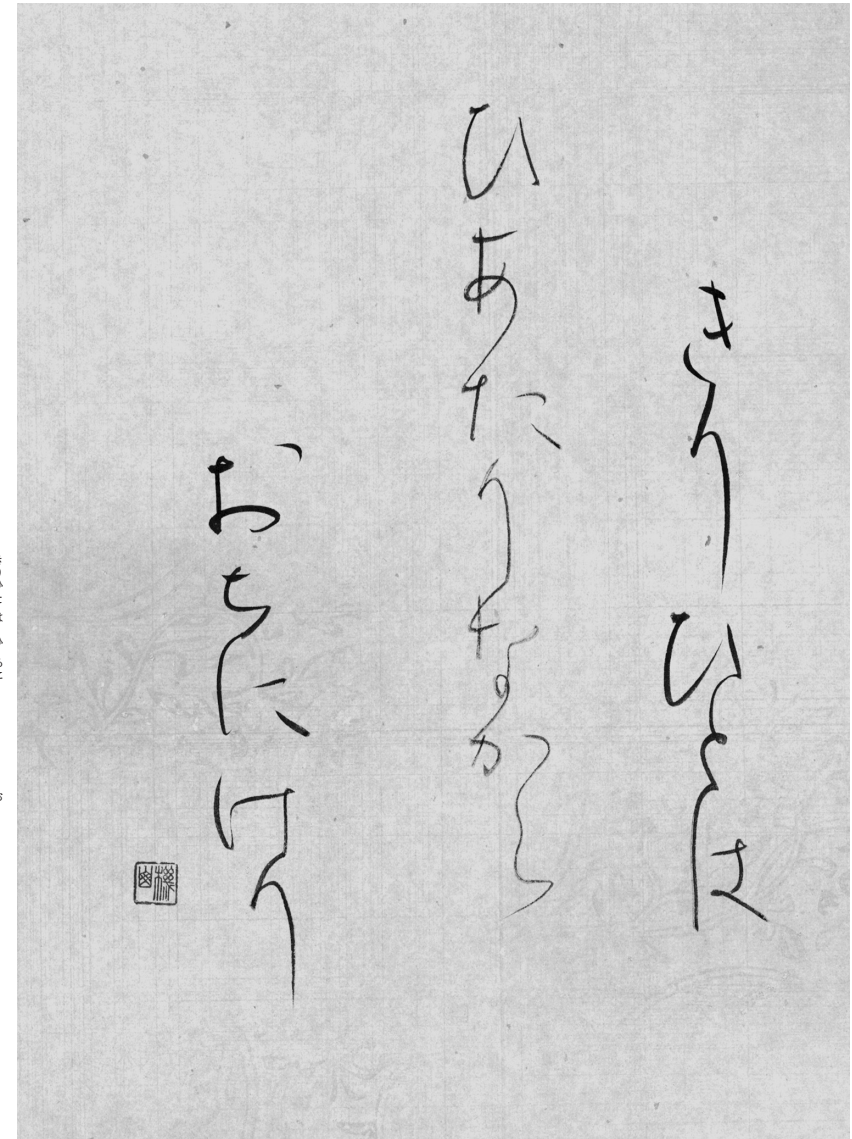
〔大意〕にわか雨は夜になってやみ夏の夜の涼風が雲を吹き流して月光が雲間からさしてくる。

一般部毛筆かな課題

締切り 8月25日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

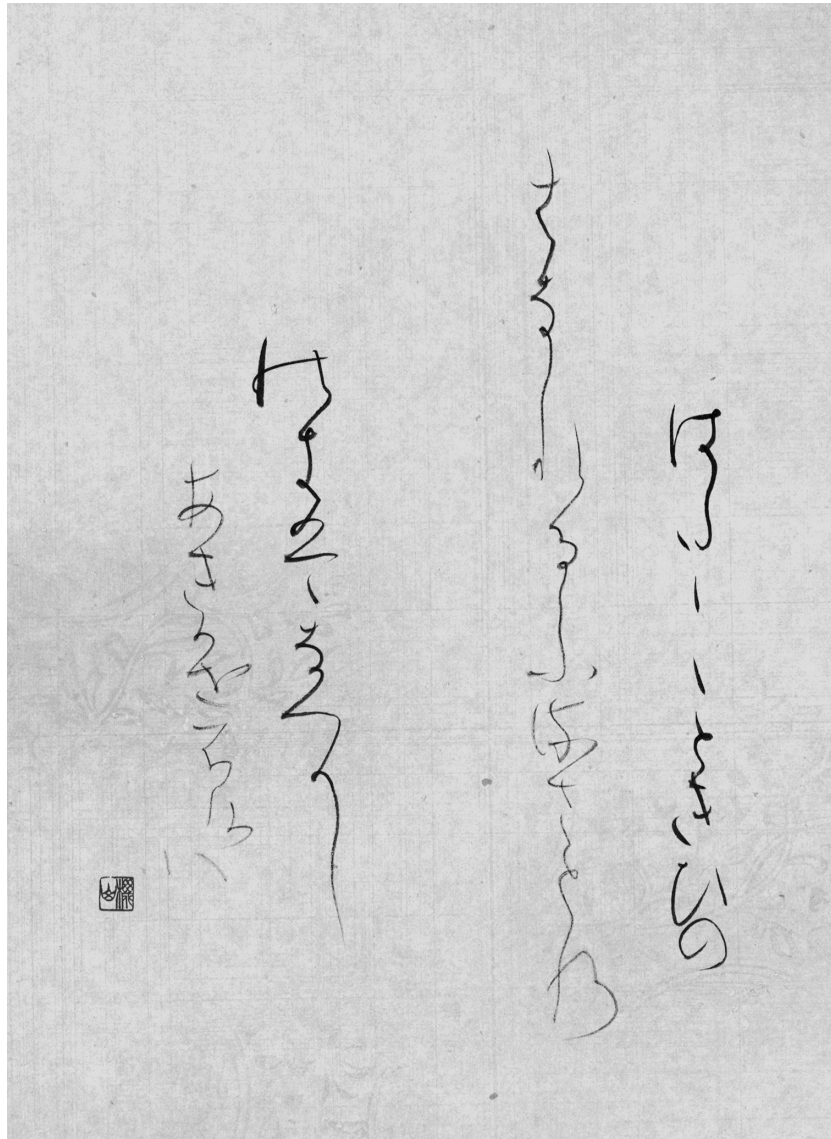


〔出典〕 高浜虚子

〔句意〕 桐の葉のゆったりと落ちるさまを高速度カメラでとらえたように表現し、その中に明と暗との対比、深まりゆく秋の物静かな一時が効果的に詠われた句。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕 石川啄木

〔歌意〕 はたはたと秋の葉の鳴りつづける故郷の軒端がなつかしい。秋風が吹くと思いだされることだ。

はたはたと秋の葉の鳴るさとの軒端なつかし秋風吹けば

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 八月二十五日(必着)

半切(一三六cm×三五cm)

荻田蒼仙書



至^{しかく}楽^{こえなく}無^{これ}聲^{こう}惟^{ゆう}孝^う友^う
太^{たい}虚^{きよ}有^{あじ}味^{あり}是^{これ}詩^し書^{しょ}

〔大意〕最高の音楽には音はなく、ただ最高の友情である孝友がある。宇宙の根源には味があって、それは詩と書である。

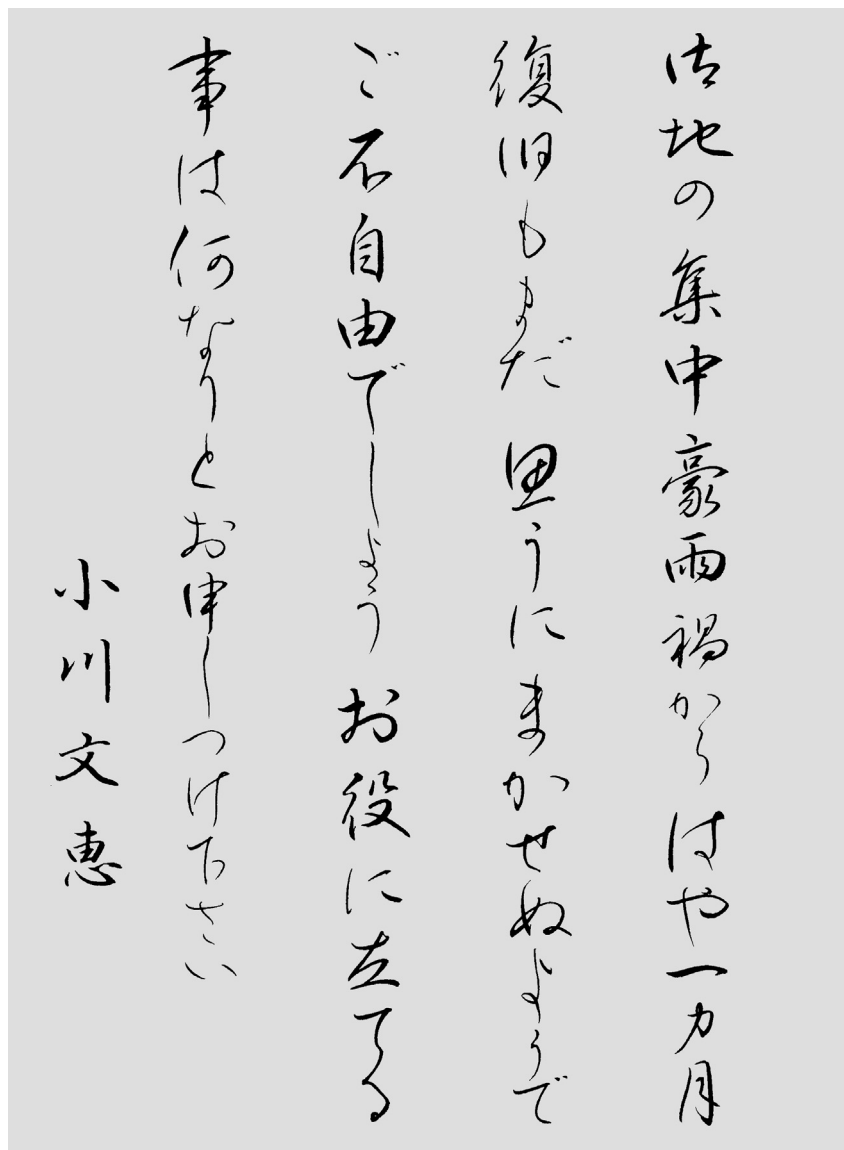
初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔解説〕古典の字をそのままではめていくと、作品が出来上がったような気になりますが、一寸要注意です。

それは実用書と異なり、作品は上下左右の字の姿によって形、大きさ、墨量等を考えねばなりません。その為には指導を仰ぐことにより徐々に力がついてきます。即ち実力と妙味を体得します。人生は終生師が欲しいです。

書 兆 春 宮 大



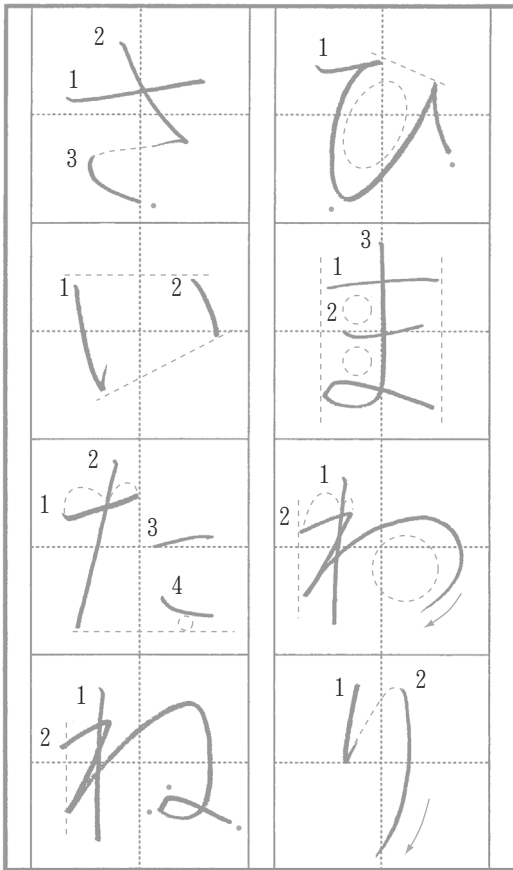
半紙(334mm×240mm)

御地の集中豪雨禍からは、一カ月
復旧もまだ思うにまかせぬようで
・ご不自由でしょう お役に立てる
事は何なりとお申しつけ下さい
(ご自分の氏名)
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

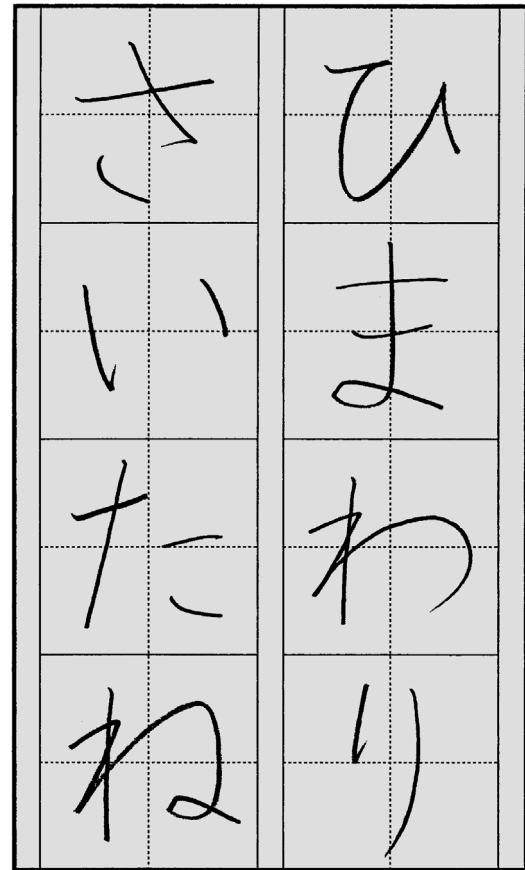
■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
■ 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



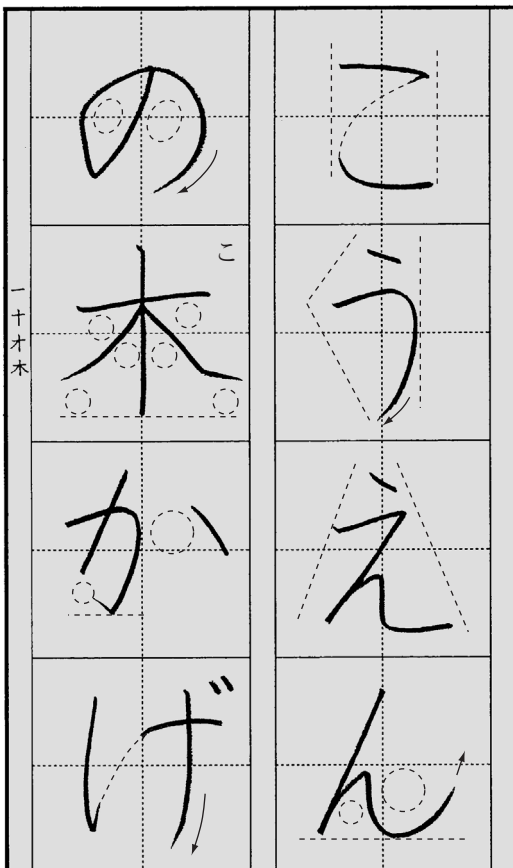
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



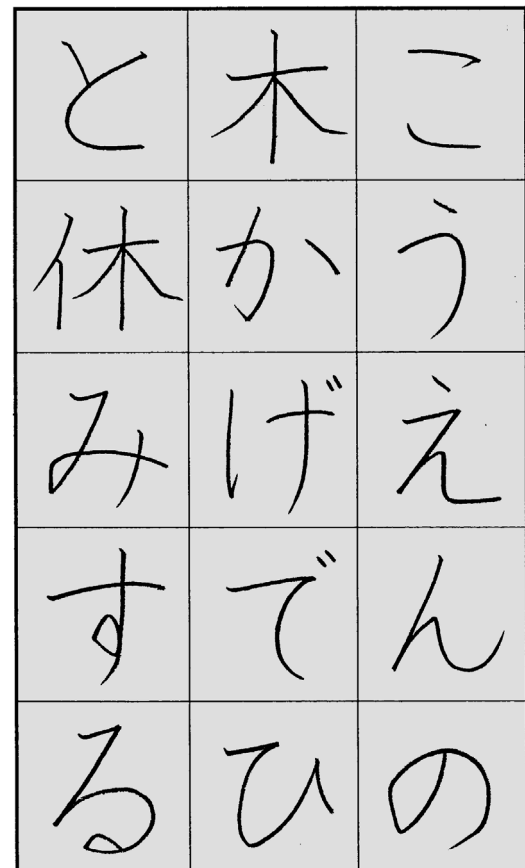
よ
う
年

幼年〜小三年
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

る	火 カ
国 くに	山 ザン
で	が
す	あ

新入1級

あ	が	日
る	た	本
国	く	は
で	さ	火
す	ん	山

準初段以上

小 二 年

や	全 ゼン
り	員 イン
す	で
る	水 みず

新入1級

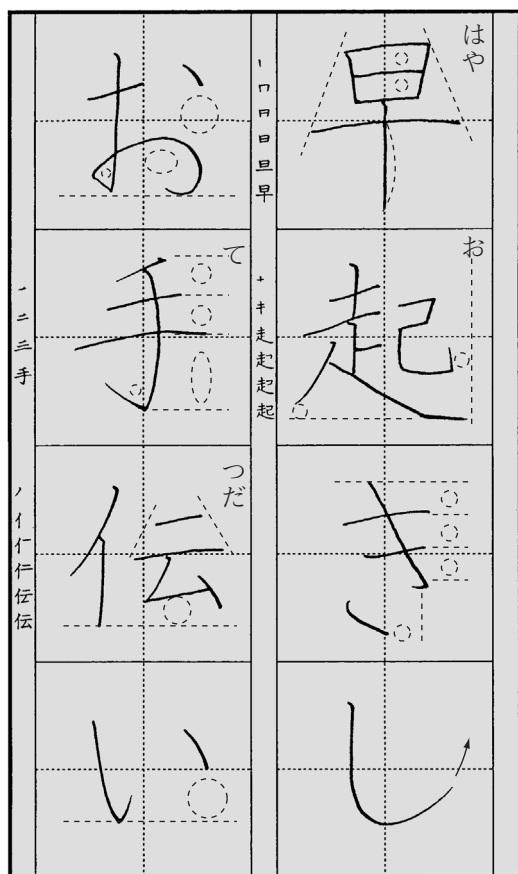
や	が	ク
り	交	ラ
を	代	ス
す	で	全
る	水	員

準初段以上

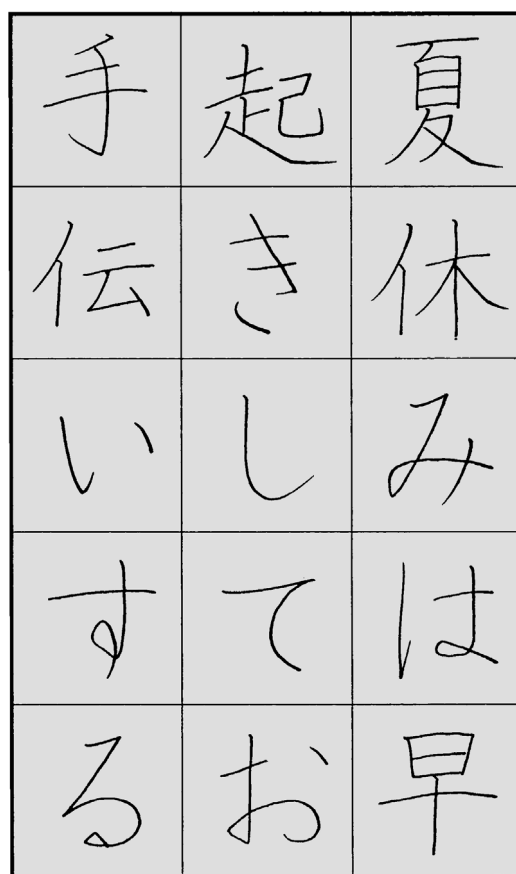
小 三 年

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)



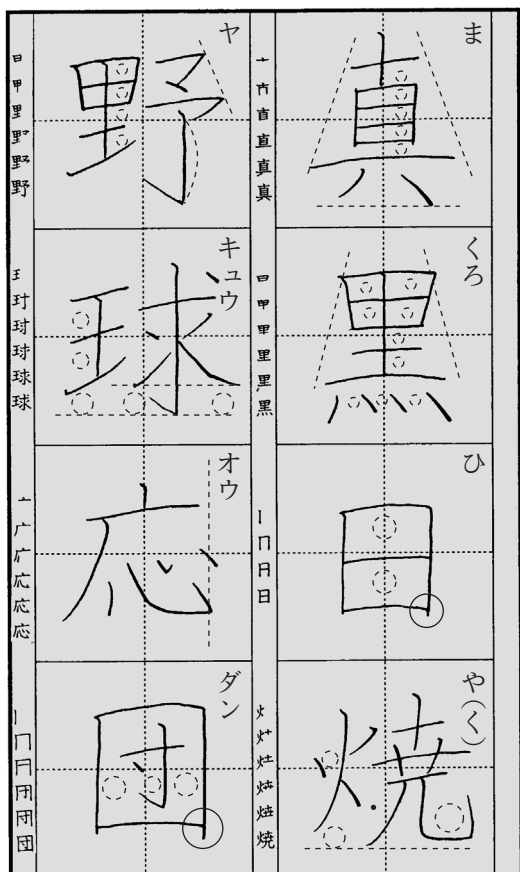
新入1級



小四年

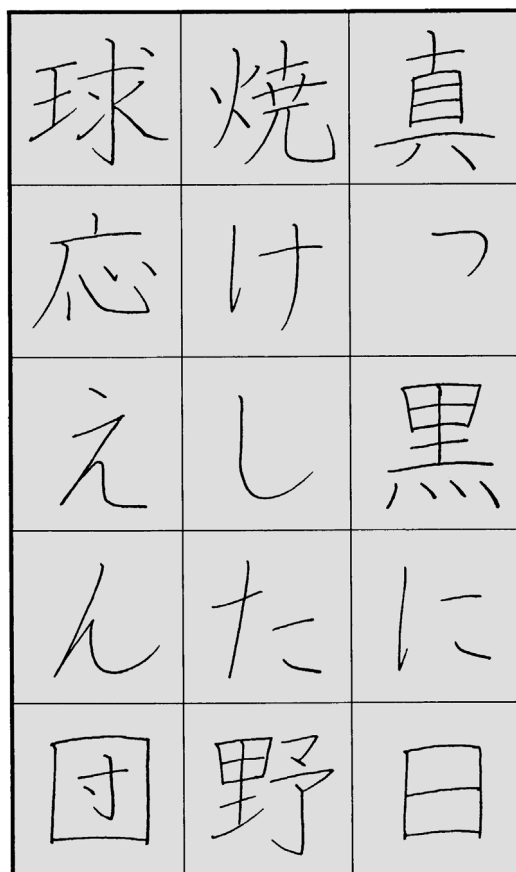
準初段以上

小四以上 須田一葉書



解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

(全員)

小六年

り	糸	弟
方	電	に
教	話	簡
え	の	単
た	作	な

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

電	弟
話	簡
方	単
教	糸

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

中一年 (行書)

本	飛	奇
と	び	想
読	出	天
ん	す	外
だ	絵	な

中二・三年 (行書)

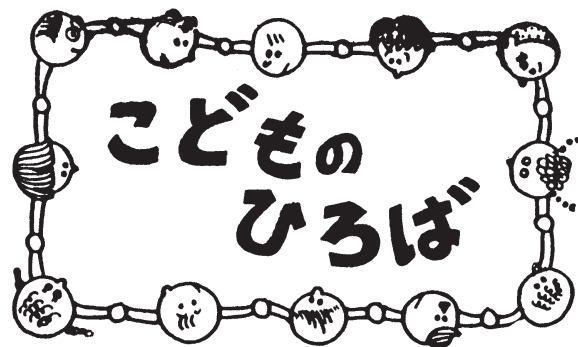
け	大	河
花	型	原
火	の	浴
装	仕	い
置	掛	に

◎お手本は、つけペンで書きました。

▼小三年以下の課題

はっ 服 部 祐 光 書

育 そだ	家 いえ	小 ちい	出 で	お
て	で	さ	店 みせ	祭 まつ
ま	大 たい	な	で	り
す	切 せつ	金 きん	も	の
	に	魚 ぎょ	ら	
			っ	
			た	



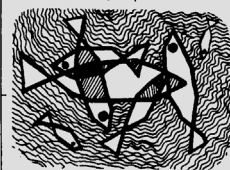
しめきり 8月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

やま 山 かど 門 せい 清 せん 扇 書

た	新 しん	大 おお	地 じ	海 かい
く	鮮 せん	き	引 び	岸 がん
さ	な	く	き	で
ん	魚 さかな	て	網 あみ	
取 と	が		に	
れ			参 さん	
た			加 か	



◎お手本はつけペン使用

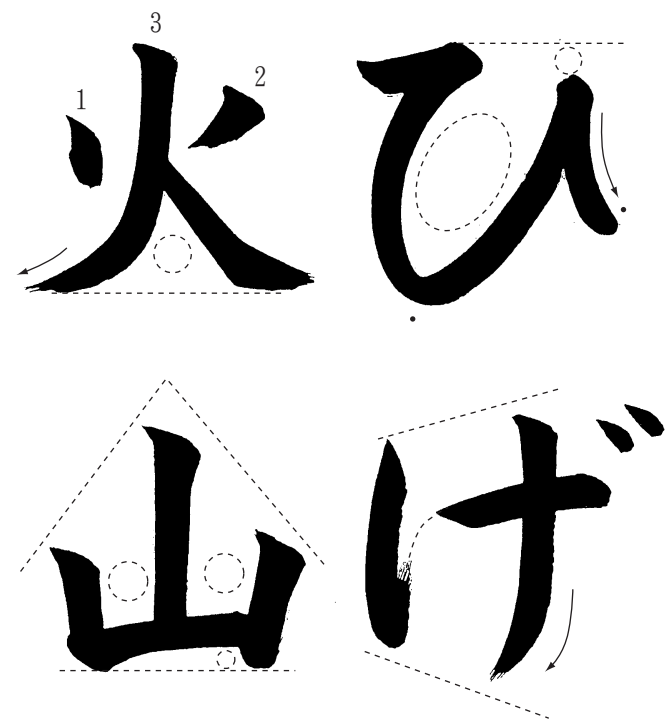
◇作品の出し方

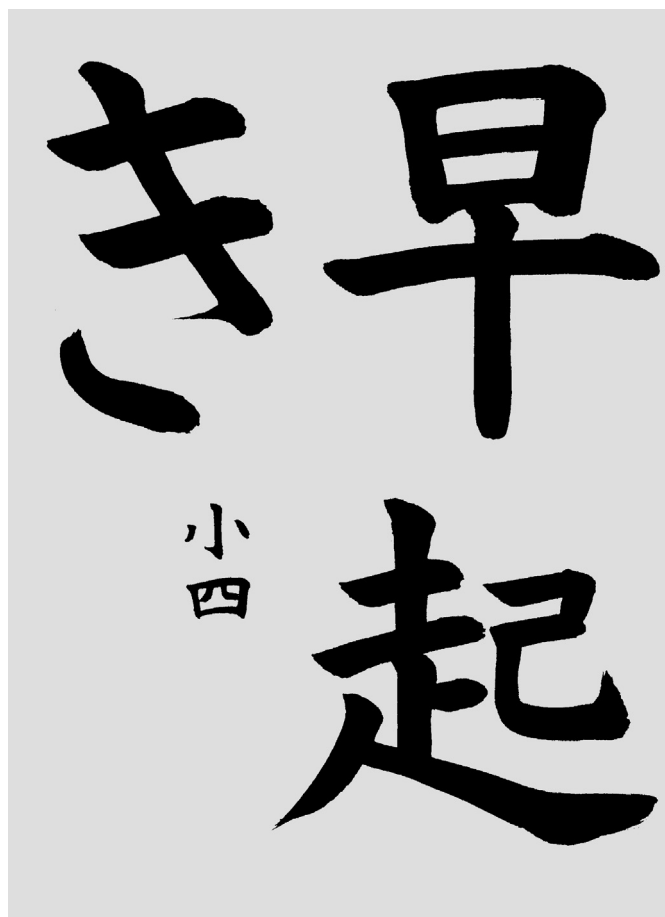
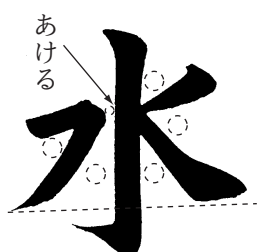
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はえんぴつ使用



幼年／小二年
玉樹小
華書





小三、小五年

水野の香竹書

中二・三
大型
装置

糸電
話
小六

想
装置
電
話
奇
ごんべん右上がりに

中一
奇
天
外
想